

2. ユーラシア大陸への鉄の伝播 村上恭通氏基調講演より

古くからユーラシア大陸を西から東へ金属器文化東伝の道がユーラシア大陸中央の草原にあり、この草原の道を「銅→青銅→鉄」と金属器を変遷しながら文化を東伝した



注目すべきは金・銅柄鉄剣などに見られる精巧な鍛冶技術が、古くから各地に伝わり、発達していた。この鍛冶技術があまりよくない製鉄素材でもその鍛冶・鍛錬技術で高度な鉄器に仕上げていった可能性が推察される。製鉄炉は小さな地下炉がいくつも近くに集積され、塊錬鉄法で製鉄が行われた。今回発見されたモンゴルホスティン・ボラグ遺跡の製鉄炉も含め、良質・量産が確立していたとはみられず、数多くのあまりよくない小鉄塊が集められ、鍛造鍛冶で鉄器に仕上げる過程で高品質を作りこんだのでは???と講演の村上教授は触れた。(日本・大陸には百錬鉄の言葉がある。 そんなイメージか・・・)



ユーラシア大陸の東西を結ぶ Iron Road で発掘された製鉄炉 小規模の地下炉 (村上)

